

# 知っちよる？

## しものせき J's ページ

水産大学校編

このページは、ジュニアのページ (J's ページ) として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は水産大学校です。

## ドローンによる船の「見える化」

みな、知っちよる？  
水産大学校海洋管理学科准教授の松本浩文です。今回は私たち研究グループが行っているドローン（無人航空機）を使った船の撮影、ドローンによる船の「見える化」のお話をします。

**ドローンで新たな撮影記録を！**

水産大学校では2隻の大型練習船で海洋実習を行っています。そのうちの1隻「天鷹丸」を32年ぶりに新しく造り替えたので、新旧交代する「天鷹丸」をドローンで撮影し記録に残すことにしました。

写真1は綾羅木沖に錨を下ろす旧「天鷹丸」です。背景は水産大学校のある吉見です。写真2は新天鷹丸の進水直後の様子です。巖流島と関門橋が見えます。そして写真3は瀬戸内海を航行する「天鷹丸」を撮影したものです。ちなみに、デッキに立っているのが私です。

また、漁師さんと一緒に漁業などの実験を行ったときにも、記念写真をドローンで撮ることがあります(写真4)。

どうでしょう？ ドローンを使えば、空から鳥の目線で写真や動画を撮影することができます。

このような取り組みは市内の小中学生にも紹介しています。昨年は市内の児童クラブや林間学校など計10カ所を訪問し、ドローンの映像を通して漁業や船の仕組みを紹介しました。どの内容も、水産業が盛んで海が身近にある下関の皆さんに知ってほしい内容です。

**船でのドローン撮影の注意**

ところで、船からドローンを離着陸させるために注意しなければいけないことはどんなことでしょうか？ それは、「潮の流れ」を感じることです。

風や波は肌や視覚で感じるこ

はできても、海に浮かぶ船で潮の流れを感じることはとても難しいものです。穏やかな海に停まっている船ですが、実は海という塊と一緒に動いているのです。船は「潮の流れ」の影響を受けますが、ドローンには関係ありません。この違いを意識することが大切なのです。

海でドローンを安全に着陸させるには天気・風向・風速のほか、「潮の流れ」を意識して海域と飛行時間を選ぶ必要があるのです。私たちは常にそれらの条件を考えながらドローンを飛ばしています。

**未知の世界を見る化へ**

船は皆さんにとって近くて遠い存在です。また、海も神秘的で魅力ある世界です。魚の生態系を含め、分からないことがたくさんあります。それら未知の世界を、ドローンを使って「見える化」することに取り組んでいます。



「写真1」



「写真2」



「写真3」



「写真4」